

## 令和元年9月27日開催定例美祢市教育委員会会議録

開催日時 令和元年9月27日（金）午後2時から午後3時50分

開催場所 勤労青少年ホーム「図書室」

### 出席委員

中本 喜弘 教育長  
金子 明美 教育長職務代理者  
山本亜由美 委員  
刀禰 信子 委員  
山田 裕治 委員

5人

### 出席教育委員会事務局職員

金子 彰 事務局長  
河村 充展 // 教育総務課長  
久保 仁 // 学校教育課長  
斉藤 正憲 // 生涯学習スポーツ推進課長  
井上 辰巳 // 文化財保護課長  
矢田部敏夫 // 学校教育課主幹  
大野 義昭 // 美東事務所長  
佐々木彰宣 // 秋芳事務所長  
野尻 悟 // 教育総務課長補佐

9人

## 開 会

### 中本教育長

午後2時 委員の出席を確認し開会を告げ、署名委員に刀禰委員、山田委員を指名する。

### 中本教育長

前回の会議録の承認について、事前に各委員へ配布された会議録への意見、質問を求める。

全員承認

## 中本教育長

行事関係について主なものを報告する。

行事関係については、資料に掲載しているとおりで、9月は市議会があり、教育委員会関係では、小中学校校舎の危険箇所の撤去と調査に係る予算を補正予算に計上し、可決された。今回は危険箇所の除去・調査のみ予算化しており、今後、改修に係る経費が必要となってくる。

報告を終了し、委員に意見を求める。

意見がないことを確認し、行事報告を終了する。

## 中本教育長

続いて、協議報告を各課から求める。

## 河村教育総務課長

教育総務課に関する事項として次の3点について協議報告をする。

- ・山陽小野田市学校給食センターの視察について

10月8日（火）を予定していたが先方の都合で10月9日（水）に変更となった。10時15分から1時間程度の視察を予定している。山陽小野田市からの資料を予めお渡しする。

- ・山口県教育委員会協議会研修会について

10月10日（木）に下松市で山口県教育委員会協議会研修会が開催される。

- ・市町村教育委員会研究協議会について

11月5日（火）、6日（水）に鳥取市で市町村教育委員会研究協議会が開催される。分科会は地域連携の分科会に山本委員、学力向上の分科会に中本教育長と刀禰委員、英語教育の分科会に金子委員が参加するよう申し込んでいる。

## 中本教育長

続いて学校教育課に協議報告を求める。

## 久保学校教育課長

学校教育課に関する事項として次の1点について協議報告をする。

- ・学校関係行事について

小学校体育祭が10月9日（水）9時から秋芳北部総合運動公園で行われる。次に小学校音楽祭が10月31日（木）に美祢市民会館あり、今年は午前中のみで開催となる。11月9日（土）と10日（日）に美祢市を会場にして中文連の大会が行われる。

**中本教育長**

続いて生涯学習スポーツ推進課に協議報告を求める。

**斉藤生涯学習スポーツ推進課長**

生涯学習スポーツ推進課に関する事項として次の1点について協議報告をする。

- ・市民体育祭の開催について

10月14日(月)に市民体育祭を行う予定にしている。御参加いただきたい。

**中本教育長**

続いて文化財保護課に協議報告を求める。

**井上文化財保護課長**

文化財保護課に関する事項として次の1点について協議報告をする。

- ・銅山まつりについて

10月27日(日)に第12回銅山まつりが行われる。全国唯一の試みである古代の銅精錬や市内花道家による銅器に生ける生花展の開催、土器洗い体験などを行う。

**中本教育長**

続いて美東事務所に協議報告を求める。

**大野美東事務所長**

特になし。

**中本教育長**

続いて秋芳事務所に協議報告を求める。

**佐々木秋芳事務所長**

秋芳事務所に関する事項として次の1点について協議報告をする。

- ・公民館連携事業inしゅうほう秋芳地域魅力発掘ツアーについて

9月21日(土)に公民館連携事業inしゅうほう秋芳地域魅力発掘ツアーを行った。台風の影響で開催が危ぶまれたが38人が参加して、開催することが出来た。今回は水をテーマに水源地を巡り、好評であった。

**中本教育長**

以上で協議報告を終了する。

## 中本教育長

教育長として私が考えていることを説明したい。

美祢市は人口が減少しており、平成20年の29,641人から令和元年には24,080人、国立社会保障人口問題研究所の推計では令和12年には19,993人になるとされている。面積の広い美祢市で人口が減っていくということは、住民サービスの見直しを考えなくてはならなくなる。教育についても全体の問題の中で考えて行かなければならない。

令和元年度の児童生徒数は小学生が957人、中学生が509人で合計1,466人であるが、一番厳しい推計では令和11年度には小学生498人、中学生339人の合計837人となっている。現在の学校数は小学校12校、中学校6校だがこの施設を維持していくには莫大な費用が必要となり、直接的に子供たちの教育のために使える予算は少なくなっていくのではないかと思う。

子どもたちを育てていく中で、現状の学校数と児童生徒数のアンバランスをどう適正化していくか、いろんな議論があると思うが、これからどのように美祢の子どもたちを育てていくのか、義務教育期間を美祢市で過ごして良かったと思えるよう、その道筋をつけて行きたい。

学校が地域の中核として、コミュニティスクールなどで地域を巻き込みながら、進んでいる大きな流れはあるが、それは分厚い地域力があってこそその役割だと思う。現状では一部の地域では子どもたちを地域で支え育む力があるが、学校を中心に地域が再生していくのは難しいと考えている。今後は、美祢市全体で生まれ育っていく子どもたちを支え育んでいかなければならないと考えている。

現在進めている小中連携・一貫教育などを踏まえて、まず、旧美祢地域から大嶺小学校と大嶺中学校を中核として再編統合を進めていきたい。大嶺中学校は生徒数が市内で一番多く、施設も新しいが、大嶺小学校は児童数が多いが施設は老朽化しており、敷地的にも制限がある。私案ではあるが、大嶺小学校を大嶺中学校と同じところに移転して、将来的には義務教育学校を新設したい。成長の過程に合わせて、どのようなカリキュラムを組んでいくかなどの課題はあるが、山口県で初めての義務教育学校としていきたい。

更に最終的には市内の小中学校を旧美祢郡の小中学校を一つにしたものと大嶺小中学校の2つの義務教育学校にしたい。小学校は児童が歩いて通学でき、地域の声が聞こえる環境にあるのが良いと思うが、市の財政状況などを鑑みると現状のままでは難しいと思う。小学校の統合は教育委員会としての方針をきちんと地域に説明し、先行させる大嶺小中学校の現状を見て判断してもらおう。中学校は複式学級や全校で生徒数が2ケタでは、3年間の中学校生活を送るのにふさわしくないと考えている。仲間同士で学び、部活も選択でき、集団の中で学ぶことが出来ることを美祢市内でも見せることが大切だと考えている。中学校の統合は教育委員会が主導権を持って進めていきたい。

旧美祢地域については5年を目途にきちんとした形を作っていきたい。それに合わせて通学距離が長くなるが、どこに住んでいても通学する手段としてスクールバスを提供したい。通学費補助については部分的にでも手を付けられる

ところから進めていきたいと考えており、通学の公平感を確保する点からも美東地域から進めていきたい。

オール美祢市で子どもたち全体を市民全体で育てていく。施設への投資では無く、子どもたちにきちんと支援を行っていくことができる体制づくりを行っていきたい。

義務教育学校の視察に行くようにしており、別の義務教育学校にも視察に行きたいと考えている。教育委員にも視察に参加してほしい。

#### 山本委員

旧美祢市と旧美祢郡に義務教育学校1校ずつとのことであったが、人口推計では旧美祢市と旧美祢郡の児童生徒数は何人なのか。

#### 河村教育総務課長

手元に資料が無く、おおよそで旧美祢市600人、旧美祢郡250人ぐらいだと思う。

#### 中本教育長

昨年度、美祢市の出生者数が81人で小学校12校に分散すると1学年2人とか3人になる。地域が疲弊していく中で、小規模学校で少人数の教職員が子どもたちを教えるには社会状況が変わりすぎていて危惧を感じている。

子どもたちに「生きる力」を身に付けさせることが大切だと思っている。昔であれば地域や団体、家庭で教わってきたことがミックスされて生きる力につながっていたと思うが、これからは道德教育が生きる力のベースになると思う。社会が多様化し、価値観も様々になっている中で、集団の中で幸せを掴んでいくための道筋、共通項を導き出すために道德を身に付けて成長することが必要だと思う。生きる力のベースとして道德教育をしっかりやっていくことが大切だと考えている。

また、小中学校の学力がしっかり身に付いていれば、専門的な道に進むことも出来るし、社会に出て経験を積んで素晴らしい人間になることが可能になる。小中学校の教育の中でしっかり学力を身に付けていくことが重要だと考えている。「道德教育」と「学力向上」を2本柱にこれから進めていきたい。

義務教育学校であれば9年間の目標を立てて教育を行うことが出来、また、教員がしっかり子どもたちに向き合えるように付帯する事務作業をサポートして、子どもたちの学びを支える学校のシステム作りを行いたいと考えている。ただ財政的な問題もあり、どこまで私の思いが実現できるかは不明な点もあるが、「道德教育」と「学力向上」を美祢市教育の中心に据えながら、環境も整えていきたい。

#### 金子委員

義務教育学校を市内に2校設置し、大嶺小中学校から始めるとのことであったが、いつぐらいの見通しなのか。

### 中本教育長

私としては大嶺小中学校の開設は5年後を目途に考えているが、新庁舎や総合支所の建設、給食センターの整備など大型事業が予定されており、いつぐらいになるか見通せない状態である。

### 金子委員

給食センターの建設はいつぐらいになるのか。

### 中本教育長

総合的に教育施設をどのようにしていくのかを考える中で順序立てて考えていきたい。給食センターは、児童生徒数の推移に合わせて規模を見直していきたい。また、既存の調理場に改修を加えて残し、児童生徒数が給食センターで賄える状態になった時に統合することも考えている。

### 金子委員

5年前にコミスクが始まったが、現在では中学校区で温度差はあるがそれぞれ学校と地域が連携した活動をしている。それぞれのコミスクの活動も大事にしながら、美祢市全体のことを考えて欲しい。

### 中本教育長

学校が中心になって子どもたちと地域を結びつけることは大変だと思う。仲間の中で成長していくにはある程度の数のまとまりが必要だと思う。児童生徒が地域に戻った時に、子どもたちと地域の接点が生まれるような機会作りは、社会教育の中で公民館活動として行っていくのがいいのではないかと考えている。

### 刀禰委員

小中学校の再編統合は進めていくのか。

### 中本教育長

美祢地域は、大嶺小学校、大嶺中学校が市内では規模の大きい学校としてあるので、そこが中心になることは住民の皆さんにも御理解いただけると思う。美東地域、秋芳地域は歴史や伝統、地域の思いも違うと思う。このため統合には最低10年かかると思っている。美東地域は小中一貫教育のシステム作りを研究しているし、秋芳地域も小学校2校、中学校1校と統合が進んでいる。美東地域・秋芳地域の小中一貫の取組みの中で、地域の皆さんに子どもたちにとって現状と義務教育学校のどちらがいいのかを判断してもらう。美祢地域が5年ぐらいのスパンで進めば、地域の皆さんに判断材料を提供出来るので、人口減少が進む中で子どもたちにとってどれぐらいの規模がいいのか判断してもらいたいと考えている。

## 刀禰委員

通学費補助について今の学校配置の中で美東中学校区から進めていくのか。

## 中本教育長

通学費補助については、不公平感の是正の要望が美東地域から出ている。将来的には学校の再編統合に合わせて全面スクールバス化を考えているが、スクールバスの空き時間の有効活用も含めて検討を行い、今すぐ全体をスクールバス化するのはスクールバスの台数や運転手の確保など難しい面もあるので、不公平感のある美東地域から進めていきたい。出来れば1サービスで全域がカバーできるような仕組み作りを行いたい。

目標を掲げた上で年度ごとのチェックを行い、どういう進め方をするかを考えていきたい。市長や教育委員と協議を重ねていき、ダウンサイジングしていく中で一番大切なものを残していきたい。

## 中本教育長

最後に、次回の教育委員会会議の開催について事務局に提案を求める。

## 金子局長

次回の定例教育委員会会議は令和元年10月28日（月）午後2時から勤労青少年ホームにおいて開催する旨を通知。

## 中本教育長

午後3時50分教育委員会会議の終了を告げる。

令和元年9月27日

教育長

委員

委員

会議録作成